



ワキ…富樫

加賀国の富樫が登場し、偽山伏に変装した義経一行を捕らえ、新しい館所を建てたことを語ります。アイ…太刀持ち

義経一行が登場します。子方…義経

シテ…弁慶
立衆…
義経一行は、弁慶以下、伊勢三郎、駿河次郎、片岡八郎、増尾十郎、みな山伏の姿に変装し、二月十日の夜に都を出て、藤原秀衡を頼って奥州へ落ち延びる途中、この安宅へ着きます。

義経一行が休憩していると、通る山伏が「新しい関が作られて旅人を厳しく調べている」と話しているのを聞きます。

話し合いの結果、義経が強力に変装し、やりすことになり、なりました。

関を偵察に出かけたが、強力は、関の警護を報告します。

一行が関を通ろうとすると、富樫と強力に止められます。

富樫に「ここをと言わない」と、最期の勤め、一行は、不動明王に祈ります。

次に弁慶は、富樫に命じられて、勸進帳を読むことになり、

あるはずのない勸進帳を、咄嗟に文章を作つて読み上げます。

富樫は、その矢先、強力姿を見、義経を見、

弁慶は「憎い、強力め」と、義経を打ち据えます。

それでも、通さないという富樫に、狙う盗人、刀に手をかけて、勇みかかります。

その様子は、どんな天魔や鬼神も恐れる有り様だったので、富樫もついに関所を通しました。

義経は「八幡大菩薩のお考えである」と言います。

そこへ、富樫が、持つて一行を、追いかけてきました。

富樫は先ほどの失礼を詫言、酒を勧めますが、弁慶は「油断してはならぬ」と戒めます。

酒宴となり、弁慶は舞を舞います。やがて酒宴も終わり、富樫たちは油断することなく、一行は別れを告げて肩にかけ、虎の尾を踏み毒蛇の口を、逃れたような心持ちで、陸奥国へと下つてゆくのでした。